

# 各大学等における経済的に困難な学生を支援するための学校独自の支援事例①（食料品・日用品の支援）

## 筑波大学（茨城県）

- 学生へのアンケートの結果、7割がアルバイトが減ったと答え、食料の支援を求める声が多かった。
- 大学側が地域の企業や農家に呼びかけたところ、教職員からの寄附も併せて1回目は20トン、2回目にも10トンの食料が集まり、1月22日及び2月17・18日にそれぞれ一斉に無料配布。約4,700人の学生が受け取った。
- 協力したのは、スーパーや生協、JA、菓子・飲料メーカー、ロータリークラブ等。集まったのは、コメ、カップ麺、ペットボトル飲料、缶詰、レトルト食品、乾麺、菓子等。

（1回目の食料支援事業の配布当日の様子。  
米は7 t、キャベツは540個を受入れ）



## 龍谷大学（京都府）



（食支援プロジェクト配布当日の様子）

- 全学生に、新型コロナによる生活の影響を調査すると、食への不安が最上位に。教職協働で食支援プロジェクトを実施。「ご縁」を大切に、支援を広げたいと龍谷大学のHPやSNSで発信。
- 行政や卒業生の勤務先を含む企業・団体より、米・野菜・飲食品・菓子・日用品を寄贈。複数の企業が学生に直接配布する機会も。3つのキャンパスでそれぞれ延べ25回、約6,000人に合計約52,500食分を提供（緊急事態宣言中は無償、解除後は5日分を1,000円）
- 配布スタッフとして200名の学生を直接雇用し、日払いで手当を支給。

## 山形県立米沢女子短期大学／山形県立米沢栄養大学（山形県）

- 年末年始の帰省を自粛した学生への支援として、教職員が食料品を持ち寄り、メッセージを付して学生約80名に配布。



# 各大学等における経済的に困難な学生を支援するための学校独自の支援事例②（食事の支援）

## 弘前大学（青森県）



（右図：  
100円夕食）



（左図：  
プレミアム  
食事券）

- 学生へのアンケート調査の結果、経済的に困窮する学生の多数が食費を削っていることが判明。
- 大学と地元商工会議所が連携して、経済的に困窮している学生の健康維持のための食事支援と、影響を受けた地元の活性化に貢献するために「弘前大学コロナに負けるな！！プレミアム食事券」5,000円分を2,000円で販売。差額の3,000円分のうち2,000円分は弘前大学が集めた寄附金により、1,000円分は商工会議所が県の補助金を活用し負担。宣伝費は市の補助金を活用。3,000枚を発行。学生は、市内の飲食店において使用可能。
- さらに、寄附金やクラウドファンディングで集めた資金を基に、「100円夕食」を学内の食堂で提供。併せて、地元飲食店の救済も兼ねた「100円昼食弁当」の取組、これまで行ってきた「100円朝食」とで、約44,000食を提供。

## 関西大学（大阪府）

- コロナ禍で困窮する学生を“食”で支援するために、「100円夕食」として、栄養バランスの取れた弁当を日替わりで一日150食販売。保護者会や生活協同組合らの協力を得て実施。



・ハンバーグデミソース  
・エビフライ  
・白身フライ  
・ナスの旨辛煮  
・ブロッコリー胡麻和え  
・ライス  
※エネルギー：987 kcal



・アジフライ  
・豚生姜焼き  
・肉だんご甘酢  
・里芋もろ煮  
・チンゲン菜のお浸し  
・ライス  
※エネルギー：872 kcal

（100円夕食  
のイメージ）

## 千葉工業大学（千葉県）

- 全学生に対し、食事の心配がないように、学生食堂で利用できる食券を学生一人当たり2万円分支給。



（左図：学生  
食堂における  
間仕切り）

（右図：食券）

## 摂南大学（大阪府）

- コロナ禍でアルバイトや家計の収入の減少、オンライン授業に対応する環境の整備費用の負担など、さまざまな要因により厳しい状況にある学生を支援するため、「学生応援ランチ」の無料チケットを2,400食分配布した。



（学生応援ランチを  
食べる学生）